

社会福祉学科

社会福祉コース

2年生

(講義)		科目名:精神保健福祉制度論		講師: 上松勝二郎	
科目概要・目標	本科目は以下に挙げる内容について理解することを目的とする。①精神障害者に関する法律の体系についての理解。②精神障害者の医療に関する制度(精神保健福祉法の概要及び医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割、精神障害者の医療に関する課題)、③精神障害者の生活支援に関する制度(相談支援制度、居住支援制度、就労支援制度などと精神保健福祉士の役割並びに精神障害者の生活支援制度に関する課題)、④精神障害者の経済的支援に関する制度(生活保護制度、生活困窮者自立支援制度、低所得者対策等諸制度と精神保健福祉士の役割について、及び精神障害者の経済的支援制度に関する課題)				
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 精神保健福祉士養成講座 4 精神 保健福祉制度論』中央法規				
提出課題	レポート設題1	精神保健福祉法成立までの過程とその内容について記述せよ。			
	学修のポイント1	医療観察法の基本的仕組み について述べよ。			
	学修のポイント2	障害者総合支援法について、その成立過程と概要を 述べよ。			
	学修のポイント3	障害年金(精神障害者が利用できるもの)について、その 概要と受給 の内容を 述べよ。			
	学修のポイント4	医療に関する制度や施策(国レベルの医療制度や施策と自治体レベルの医療費助成) について述べよ。			
	学修のポイント5	生活困窮者自立支援制度 について、その概要 と各事業について述べよ。			
	学修のポイント6	低所得者対策 について、その概要を 述べよ。			
期末試験	後日指示				
回数	授業内容				
第1回	精神障害者に関する法制度、社会保障が果たす機能と役割について理解する				
第2回	精神障害者に関する制度の成立過程とその特徴と現在の問題点について				
第3回	実際の事例を通して本科目を学ぶ必要性、制度、サービスについて				
第4回	障害者の医療に関する制度、医療計画について学ぶ				
第5回	医療観察法の概要と精保士の役割について				
第6回	精神障害者の医療関連する施策について				
第7回	精神障害者の生活支援に関する制度について(基本的考え)				
第8回	相談支援制度についての理解(相談支援の概要)				
第9回	居住支援制度及び就労支援制度について				
第10回	精神障害者の経済的支援について(経済的支援の意義と役割)				
第11回	精神障害者の経済的支援について(所得保障に関わる支援)				
第12回	精神障害者の経済的支援について(経済的負担の軽減)				
第13回	生活困窮と生活保護制度について				
第14回	生活困窮者自立支援制度、低所得者対策について				
第15回	期末試験				
第16回	科目終了試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点			
備考					

(演習)		科目名:ソーシャルワーク演習Ⅱ		講師: 森 奈祐	
科目概要・目標	ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。 ソーシャルワーク演習Ⅱは「ソーシャルワークの展開」という位置づけとなり、ソーシャルワーク演習Ⅰで学習したクライアントシステムに関する理解を踏まえて、ソーシャルワーク・プロセスの展開とプロセスにおいて活用される面接やプログラム分析、アウトリーチやチームアプローチといった技術についてトレーニングする。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、高齢者や障害者の支援事業所の運営、介護支援専門員業務、社会福祉・精神保健福祉の相談業務を経て、専門学校で福祉・心理科目の授業や実習指導に携わってきた社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理士の講師のもとで、福祉現場における事例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
	教科書	「はじめてのソーシャルワーク演習」編集委員会編『はじめてのソーシャルワーク演習』ミネルヴァ書房			
提出課題	レポート設題1	ソーシャルワーク実践における展開過程について述べよ。			
	学修のポイント1	人を理解するための総合的な視点(バイオ・サイコ・ソーシャル)について			
	学修のポイント2	ソーシャルワークの支援過程(ソーシャルワークプロセス)について			
	学修のポイント3	グループワークの展開過程とソーシャルワーカーの動きについて			
	学修のポイント4	コミュニティワークの支援過程とソーシャルワーカーの働きについて			
	学修のポイント5	ネットワーキングについて			
	学修のポイント6	ファシリテーション、ネゴシエーション、プレゼンテーションについて			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション、オープニング			
第2回		人間(個人)の理解			
第3回		面接技法			
第4回		ソーシャルワークの支援過程①			
第5回		ソーシャルワークの支援過程②			
第6回		コミュニティソーシャルワーク・プロセス			
第7回		グループワーク技法①			
第8回		グループワーク技法②			
第9回		グループワークにおけるソーシャルワーカーの役割			
第10回		アウトリーチ			
第11回		チームアプローチ			
第12回		ソーシャルアクション			
第13回		コーディネーションとネットワーキング			
第14回		ファシリテーション、ネゴシエーション、プレゼンテーション			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点	提出課題の理解度・提出期限、授業内での取組姿勢、授業への参加態度について評価		
備考		授業中の居眠り、スマートフォン等の無断使用、授業内容に関係ない行為、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価とします。			

(講義)		科目名: 公的扶助論		講師: 飯塚哲男	
科目概要・目標		この科目では、社会保障制度において“救貧”を担う公的扶助制度に関する基礎知識を体系的に学修する。具体的には、公的扶助制度の歴史的経緯などを学ぶとともに、わが国における公的扶助制度として生活保護制度の目的、原理、原則、実施体制、制度運用の現状と問題点、被保護者の権利及び義務に加え、近年の公的扶助制度に関する動向や課題などについて学ぶ。また、低所得者支援の制度として、生活困窮者自立支援制度や生活福祉資金貸付制度等についても学ぶ。			
教科書		『最新 社会福祉士養成講座 4 貧困に対する支援』専門科目 中央法規 第2版			
提出課題	レポート設題1	【設題1】生活保護の基本原則の一つである補足性の原理について述べなさい。 ＜ポイント＞生活保護法の該当部分の条文を踏まえ、保護の要件とされることと、保護に優先されることを中心に、現状の制度の問題点とともに論じること。			
	学修のポイント1	貧困をとらえる3つのアプローチについて			
	学修のポイント2	生活保護制度の2つの目的について			
	学修のポイント3	生活扶助基準の構成について			
	学修のポイント4	生活保護制度の動向とその背景について			
	学修のポイント5	住宅に関する低所得者支援関連施策について			
	学修のポイント6	生活困窮者自立支援制度について			
期末試験		講義の中で発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション、公的扶助の概念 p2～8			
第2回		貧困の概念度と貧困をとらえる3つのアプローチ p18-27			
第3回		生活保護制度の目的と4つの基本原則① p67-70			
第4回		生活保護制度の4つの基本原則②(補足性の原理) p70-74			
第5回		生活保護制度の4つの基本原則 p74-78			
第6回		生活保護基準①(保護の種類と内容) p78-93			
第7回		生活保護基準②(最低生活保障水準等) p104-111			
第8回		生活保護制度の動向とその背景① p111-124			
第9回		生活保護制度の動向とその背景② p28-40			
第10回		住宅に関する低所得者支援関連施策 p159-173			
第11回		生活困窮者自立支援制度 p126-146			
第12回		貧困支援における関係機関と専門職の役割 p174-196			
第13回		まとめ、レポート作成			
第14回		期末試験/科目終了試験対策			
第15回		期末試験(持ち込み不可)			
第16回		科目終了試験(持ち込み不可)			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。 ※欠席・遅刻しないこと。		
	期末試験	30点	持ち込み不可		
	授業内評価	20点	レポート及び課題 ※期限を守ること。		
		20点	受講姿勢 ※積極的に参加すること。禁止事項を守ること。遅刻しないこと。		
備考		遅刻、欠席、私語、スマートフォン・イヤホン等使用厳禁。			

(実技)		科目名:フィールドワークⅢ		講師:坂本知謙 田本佳寿美 仁井田 和也	
科目概要・目標	社会福祉学を学ぶために、当科目では福祉とはどのようなものかのイメージをもてるようになること目的とする。まず、保健・医療・福祉の概要を学び、福祉の位置づけを確認する。次に、多様な考え方や形があり、多くの専門職の活躍からも成り立つ福祉とはどのようなものかを、自ら情報を得ようとし、グループワークを通して多角的な視点でそれらをまとめることとする。さらに、フィールドワーク(外部研修)を通して、実践の現場に触れる機会を持ち、講義などで学んだものにイメージを付けていくことを目指す。				
教科書	配布資料を基に学習を進める				
期末試験	後日連絡				
回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション、グループワーク				
第2回	精神科ソーシャルワーカーについて				
第3回	精神保健福祉士、精神障害について				
第4回	精神科ソーシャルワーカーについて				
第5回	児童発達支援について				
第6回	スクールカウンセラーについて				
第7回	医療ソーシャルワーカーについて				
第8回	老健について				
第9回	障害者グループホームについて				
第10回	認知症サポーター養成講座				
第11回	ジモト就職について				
第12回	福祉法人などによる授業				
第13回	福祉法人などによる授業				
第14回	成年後見について				
第15回	福祉法人などによる授業				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点	授業態度、グループワーク等への参加・発言・積極性、提出物の内容、提出期限を評価		
備考	授業中の居眠り、スマートフォン等の無断使用、授業内容に関係ない行為、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価とします。				

(講義)		科目名:地域福祉論		講師: 孫琳	
科目概要・目標	本科目では地域福祉の基本的な考え方をはじめ、地域福祉に関わる組織・団体や専門職、住民の主体形成の概念、福祉行財政の実施体制や福祉計画の意義、包括的支援体制の考え方などについて学ぶ。現代の地域福祉を取り巻く問題として社会的孤立や8050問題、生活困窮者支援、災害時の支援などについても取り扱う。本科目は社会福祉士および精神保健福祉士受験資格の指定科目である「地域福祉と包括的支援体制」に対応するものである。				
教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括的支援体制』中央法規			
提出課題	レポート設題1	地域における福祉以外の分野との機関協働のあり方について、実際に行われている先駆的な取り組みを1つ事例として取り上げ、その取り組みが地方創生や地域福祉の推進に及ぼしている影響について考察しなさい。			
	レポート設題2	災害時に活用される法制度の概要と、被災者のニーズおよび平時からの支援体制のあり方について述べよ。			
	学修のポイント1	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題について			
	学修のポイント2	包括的支援体制(包括的な相談支援体制)とその具体例について			
	学修のポイント3	地域福祉の推進主体について			
	学修のポイント4	地域を基盤としたソーシャルワークの展開について			
	学修のポイント5	市町村地域福祉計画の概要とPDSサイクルについて			
	学修のポイント6	福祉行政における地方公共団体の役割と社会福祉の実施体制について			
期末試験					
回数		授業内容			
第1回		学修のポイント①現代社会における社会福祉問題と地域福祉			
第2回		学修のポイント②地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制			
第3回		地域福祉の歴史的発展と基本的な考え方			
第4回		地域福祉ガバナンスと多機関協働①			
第5回		地域福祉ガバナンスと多機関協働②			
第6回		学修のポイント④地域を基盤としたソーシャルワーク(コミュニティソーシャルワーク)			
第7回		地域福祉の推進方法			
第8回		災害支援と地域福祉①			
第9回		災害支援と地域福祉②			
第10回		学修のポイント③地域福祉の推進主体			
第11回		地域における子ども支援			
第12回		学修のポイント⑤地域福祉計画とその実際			
第13回		学修のポイント⑥福祉行財政システム			
第14回		期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点			
	授業内評価	30点	課題提出期限が遅れたら減点 1回5点		
		20点	積極的な授業態度		
備考		参考文献: 上野谷加代子・松端克文・永田祐(編著)『新版 よくわかる地域福祉論』ミネルヴァ書房			

(講義)		科目名:児童・家庭福祉論		講師: 孫琳	
科目概要・目標	少子高齢化社会の進行、家庭や地域における子育て機能の低下などにより、子育て環境が著しく変化している。これからの子ども家庭福祉においては、子どもを健やかに生み育てられる環境づくりと家庭に対する支援を一層重視した施策の展開が求められている。このような子ども家庭福祉をめぐる環境の変化を踏まえ、子どもや家庭を取り巻く現代社会、次世代育支援と子ども・子育て支援、子ども家庭福祉の理念と子どもの権利擁護、子ども家庭福祉の法体系と実施体制、子ども家庭福祉にかかわる福祉・保健施策とソーシャルアクションなどについて学修する。				
	教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座3 児童・家庭福祉』中央法規		
提出課題	レポート設題1		少子高齢化社会における子ども家庭福祉のあり方について述べよ。		
	学修のポイント1		子ども家庭福祉とは何か		
	学修のポイント2		少子化高齢化社会の現状と子育て・子育てへの影響について		
	学修のポイント3		子ども家庭福祉に関わる法制度について		
	学修のポイント4		子ども・子育て支援法と子ども・子育て支援制度について		
	学修のポイント5		児童虐待にかかわる支援や対策について		
	学修のポイント6		子ども家庭福祉におけるソーシャルアクションについて		
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		学修のポイント①子ども家庭福祉とは			
第2回		学修のポイント②子ども家庭を取り巻く現代社会			
第3回		学修のポイント③子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向			
第4回		少子高齢化社会における子ども家庭福祉のあり方について①			
第5回		少子高齢化社会における子ども家庭福祉のあり方について②			
第6回		社会的養護を必要とする子どもへの支援			
第7回		学修のポイント⑤ドメスティックバイオレンスと子ども虐待、その防止策			
第8回		子育て世帯の貧困とその家庭への対応			
第9回		ひとり親家庭への支援			
第10回		母子保健と子どもの健全育成			
第11回		学修のポイント④少子化に対応するための子育て支援と保育サービス			
第12回		障害のある子どもへの対応と少年非行等への対応			
第13回		学修のポイント⑥子ども家庭福祉におけるソーシャルアクションについて			
第14回		期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率		30点	75%以上の出席を必須とする。	
	期末試験		20点		
	授業内評価		30点	課題提出期限が遅れたら減点 1回5点	
			20点	積極的な授業態度	
備考		参考文献: 吉田幸恵・山縣文治(編著)『新版 よくわかる子ども家庭福祉[第2版]』ミネルヴァ書房; 垣内国光 [ほか]『子ども家庭福祉: 子ども・家族・社会をどうとらえるか』生活書院			

(講義)		科目名:ソーシャルワークの基盤と専門職		講師: 森奈祐	
科目概要・目標	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ(社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法)について理解した上で、ソーシャルワークの概念、基盤となる考え方(原理・理念)を学び、現代にいたるまでのソーシャルワークの歴史的な形成過程について学ぶ。 さらに、社会福祉士、精神保健福祉士、ソーシャルワーカーそれぞれの倫理綱領を読み解き、ソーシャルワークの価値規範と倫理について考究を行う。				
教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規			
提出課題	レポート設題1	ソーシャルワーカーの倫理綱領・行動規範を学び、ソーシャルワーク実践においてなぜ倫理綱領を遵守することが大切なのかを考察せよ。			
	学修のポイント1	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義について			
	学修のポイント2	ソーシャルワークの理念について			
	学修のポイント3	ソーシャルワークの源流と基礎確立期の歴史的展開			
	学修のポイント4	ソーシャルワークの発展期について			
	学修のポイント5	ソーシャルワークの展開期と統合化について			
	学修のポイント6	日本におけるソーシャルワークの形成過程について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法			
第2回		ソーシャルワーク専門職のグローバル定義について①			
第3回		ソーシャルワーク専門職のグローバル定義について②			
第4回		コンピテンシーについて			
第5回		ソーシャルワークの倫理			
第6回		専門職倫理の概念と倫理綱領			
第7回		ソーシャルワークの原理			
第8回		ソーシャルワークの理念①			
第9回		ソーシャルワークの理念②			
第10回		ソーシャルワークの源流と基礎確立期①			
第11回		ソーシャルワークの源流と基礎確立期②			
第12回		ソーシャルワークの発展期			
第13回		ソーシャルワークの展開期と統合化			
第14回		日本におけるソーシャルワークの形成過程			
第15回		期末試験			
第16回		科目修了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	提出課題の理解度・提出期限、授業内での取組姿勢、授業への参加態度について評価		
備考		授業中の居眠り、スマートフォン等の無断使用、授業内容に関係ない行為、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価とします。			

(講義)		科目名:養護原理		講師: 小澤登生男	
科目概要・目標	児童養護は、一度だけの相談、助言、指導や治療によって終わるものではなく、ある一定の期間にわたって、意図的・継続的に展開される日々の活動を通じて行われるものであることを認識する必要がある。そこで本科目では、児童養護に関する理念と考え方、児童養護の役割や形態、児童養護の歴史的変遷など、基礎的知識を学修する。そして、実際に福祉現場に出たときに必要な知識・技術を身につけるために、児童養護に関する事例ケースを基に、ケースワークやグループワークなどの方法について分析する。				
教科書		小野澤昇・田中利則・大塚良一 編著 『子どもの生活を支える 社会的養護』 ミネルヴァ書房			
提出課題	レポート設題 1	児童養護の意義と基本原理について述べよ。			
	レポート設題 2	施設で用いられる個別援助技術(ケースワーク)について述べよ。			
	学修のポイント ①	社会的養護及び児童養護の意義と基本原理について			
	学修のポイント ②	児童養護の制度と社会的養護の特質について			
	学修のポイント ③	社会的養護と日常生活及び自立支援について			
	学修のポイント ④	社会的養護と親子・地域との関係調整について			
	学修のポイント ⑤	社会的養護に関わる職員の資質について			
	学修のポイント ⑥	児童支援におけるチームワークについて			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		児童養護の意義と基本原理について①			
第2回		児童養護の意義と基本原理について②			
第3回		施設で用いられる個別援助技術について①			
第4回		施設で用いられる個別援助技術について②			
第5回		施設で用いられる個別援助技術について③			
第6回		学修のポイント①児童養護の意義と基本原理について			
第7回		学修のポイント②社会的養護の制度と特質について			
第8回		学修のポイント③社会的養護の日常生活及び自立支援について			
第9回		学修のポイント④社会的養護における親子・地域との関係調整について			
第10回		学修のポイント⑤社会的養護に関わる職員の資質について			
第11回		学修のポイント⑥子どもの支援におけるチームワークについて			
第12回		社会的養護にあげられる課題①			
第13回		社会的養護にあげられる課題②			
第14回		期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点			
	授業内評価	30点	課題提出期限が遅れたら減点 1回5点		
		20点	積極的な授業参加・態度		
備考		学びの場です。遅刻・欠席をせずに主体的に学修してください。			

2026年度 前期

(講義)		科目名:一般教養対策講座 I		講師:片桐 淳		
科目概要・目標	就職試験、公務員試験に向けて広く一般教養を高めること					
教科書	なし					
期末試験	総復習テスト					
回数	授業内容					
第1回	一般教養対策等					
第2回	一般教養対策等					
第3回	一般教養対策等					
第4回	一般教養対策等					
第5回	一般教養対策等					
第6回	一般教養対策等					
第7回	一般教養対策等					
第8回	一般教養対策等					
第9回	一般教養対策等					
第10回	一般教養対策等					
第11回	一般教養対策等					
第12回	一般教養対策等					
第13回	一般教養対策等					
第14回	一般教養対策等					
第15回	一般教養対策等					
第16回	期末試験					
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。			
	期末試験	25点	総復習テスト			
	授業内評価	45点	各回復習テスト(3点×15回)			
備考						

2026年度前期

(講義)		科目名:青年心理学		講師: 木村 洋太	
科目概要・目標	10代半ば～20代前半はまさに青年期と呼ばれる時期に位置し、大学生の”今”が詰まった時期と言える。この授業では、これまでの自分の体験をもとに青年期を考えることから出発し、周りの友だちの体験、そして心理学の理論・データの知見を参考にしながら、青年期に深く関わるテーマ(自己・友人関係・反抗期・恋愛・勉強など)に目を向ける。授業を通して、自由な心のあり方を学び、更新されていく自分の姿を感じながら自己の理解を深めて欲しい。				
教科書	教科書は指定せず、講義レジュメと参考資料を配布する。 参考文献は授業中に適宜紹介する。				
期末試験	詳細は、後日に決定する				
回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション 心理学と発達心理学				
第2回	青年期とはいつなのか？ 発達段階とはなにか				
第3回	児童期後半に起こる心の揺れ				
第4回	親子関係の発達変化 - 大人にイラっとするとき 反抗期を考える				
第5回	友人関係の発達変化 - 私たちって親友だよね				
第6回	自己肯定感を育む				
第7回	現代青年のアイデンティティ				
第8回	アイデンティティの拡散				
第9回	性格心理学				
第10回	自分探しの青年心理学1: 合意形成: 互いに違う価値観の理解				
第11回	恋愛の心理学				
第12回	恋に落ちる過程の心理学				
第13回	告白と両想いの心理学				
第14回	愛が終わる過程の心理学				
第15回	デートバイオレンスについて				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	50点	論述式。持ち込み可。		
	授業内評価	20点	毎授業提出するワークシート、授業の参加姿勢などを総合的に評価する。		
備考(メッセージ)		みなさんにとっての「あるある」が授業内に詰まっています。青年期は、ココロと身体が飛躍的に変化する時期であるゆえに、様々に苦しむ時期でもあります。いいところも悪いところも、自分の理解を深めることで、これからの見通しに役立てられるような下地をつくりましょう。			

(講義)		科目名:精神保健学		講師: 上松勝二郎	
科目概要・目標	精神保健とは、精神的健康に関する公衆衛生であり、精神障害の予防・治療・リハビリテーションから、精神的健康の保持・増進を図るための諸活動までも含んでいる。このような精神保健の基本的視点や基礎知識を学修し、現代の精神保健の意義や課題を考える。				
	具体的には、精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要、精神保健の視点から見た(1)家族の課題とアプローチ、(2)学校教育の課題とアプローチ(3)勤労者の課題とアプローチ(4)現代社会の課題とアプローチ、精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割、地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題、精神保健に関する専門職種(保健師等)と国・都道府県・市町村・団体等の役割及び連携、諸外国の精神保健活動の現状及び対策を学ぶ。				
教科書		新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集 『新版精神保健福祉士養成セミナー第2巻 精神保健学—精神保健の課題と支援』へるす出版			
提出課題	レポート設題1	ライフサイクルにおける精神保健について述べよ			
	レポート設題2	精神保健における個別課題の取り組みについて述べよ			
	学修のポイント1	認知症高齢者対策について			
	学修のポイント2	アルコール関連問題について			
	学修のポイント3	世界の精神保健の現状について			
	学修のポイント4	思春期精神保健対策について			
	学修のポイント5	地域での精神保健施策の現状と課題について			
	学修のポイント6	現代社会の精神保健学的な課題と対策について			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		現代社会と精神保健 (精神保健の意義と対策)			
第2回		ライフサイクルにおける精神保健 (乳児期・学童期)			
第3回		ライフサイクルにおける精神保健 (思春期・青年期)			
第4回		ライフサイクルにおける精神保健 (成人期)			
第5回		ライフサイクルにおける精神保健 (老年期、認知症について)			
第6回		わが国の精神障害対策			
第7回		アルコール関連問題対策、薬物乱用防止対策について			
第8回		思春期の精神保健対策			
第9回		地域精神保健活動、こころの健康づくり、司法精神保健福祉対策			
第10回		緩和ケアと精神保健、精神保健における技法、カウンセリングについて			
第11回		家庭における精神保健、学校における精神保健			
第12回		地域精神保健の現状と課題、精神保健に関する調査研究			
第13回		メンタルヘルスの諸課題における関連専門職種の役割と連携			
第14回		世界の精神保健			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点			
備考					

(講義)		科目名:精神保健福祉の原理		講師:田本 佳寿美	
科目概要・目標	本科目は、障害者福祉の思想と原理、理念、また歴史的展開を理解したうえで、現代の「障害」や「障害者」に関する概念について学ぶ。また、諸外国の動向を踏まえ、日本の障害に関する現状や課題、精神科医療の特異性を学習する。さらには現代社会において、精神保健福祉士が有するべき原理や価値、理解しておくべき根拠法(精神保健福祉士法)や倫理綱領、職域と業務内容について考究することを目的とする。具体的には次の7つの項目を学修目標とする。 ①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み(理念・視点・関係性)について理解する。 ② 精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。 ③ 精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。 ④ 精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。 ⑤ 現在の精神保健福祉士の基本的枠組み(理念・視点・関係性)と倫理綱領に基づく職責について理解する。 ⑥ 精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。				
	教科書	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の原理』中央法規。			
レポート	設題 1	精神障害についての概念について説明しなさい。 ＜ポイント＞ICIDHとICFを採用した精神障害の構造を説明する。そのうえで、疾病と障害の共存について、障害の可逆性、環境因子との相互作用、体験としての障害などについて具体例を挙げながら述べること。			
	設題 2	明治期から現代にかけて、精神障害者の対応法の歴史的変遷について述べなさい。＜ポイント＞精神病患者監護法・精神病院法の軌前二法がいかなる状況で制定されたのか、またどのような内容の法令であったかを述べる。加えて、1950年成立した、精神衛生法がいかなる改正を経て現在に至っているのかについて述べること。			
科目終了試験	学修のポイント1	1965年と1987年の精神衛生法改正について、その内容と改正のきっかけになった事件の内容を書きなさい。 ＜ポイント＞1964年のライシワール事件と1984年宇都宮病院事件発覚について、それぞれ何が問題とされたのかについて述べる。加えてそれらの問題について、わが国の精神科医療の特質性について述べなさい。			
	学修のポイント2	＜ポイント＞病院収容についての歴史と精神科特例、多剤併用についてその概要と問題点について述べる。また、施設化した精神科病への警告としてのクラーク精神障害者の家族が置かれている状況について述べなさい。			
	学修のポイント3	＜ポイント＞法律に規定された家族の位置づけを、法の変遷にそって述べる。まずは精神病患者監護法での規定と役割、精神衛生法の改正によって幾度もその規定と役割が変遷している。その問題点と変遷について述べること。			
	学修のポイント4	＜ポイント＞まず、「Y問題」というものが何かについて述べる。そのうえで、「Y問題」が示したPSWへの教訓と課題について学修すること。その後整理された倫理綱領への意義があることと述べる。			
	学修のポイント5	エンパワメントリカバリーについて、その特徴と定義について述べよ。 ＜ポイント＞それぞれの概念が生成された背景と定義、それらの視点を活用した実践などを述べるように学修すること。			
	学修のポイント6	精神保健福祉士法(※注意:精神保健福祉法ではない)について概要について述べよ。 ＜ポイント＞精神保健福祉士法の成立とその目的について、その定義、義務規定について説明できるように学修すること。			
期末試験		後日連絡			
回数		授業内容			
第1回		「精神保健福祉の原理とは何か」 「日本における排除の歴史と構造」①			
第2回		「障害者福祉の理念と歴史的展開」 「日本における排除の歴史と構造」②			
第3回		「制度における「精神障害者」の定義」「国際生活機能分類(ICF)と精神障害」 「精神障害の「精神特性」			
第4回		「精神障害の理解と支援にかかわる新たな潮流」 「諸外国における排除の歴史とその後の展開」			
第5回		「日本の社会的障壁をめぐる課題とその克服への取り組み」			
第6回		「精神科医療による生活への影響」			
第7回		「精神障害者の家族が置かれている状況」 「精神障害者の社会生活の実際」			
第8回		「メンタルヘルスをめぐる新たな課題」 「精神保健福祉士の原理が培われた足跡・過程」			
第9回		「精神保健福祉士による実践の価値・原理」 「精神保健福祉士による実践の視野や視点」			
第10回		「援助における関係性」 「精神保健福祉士法の理解」			
第11回		「精神保健福祉士の職業倫理」 「精神保健福祉士の業務特性と業務指針」			
第12回		「組織新保健福祉士の職場・職員」			
第13回		「精神保健福祉士の業務内容とその特性」			
第14回		まとめ 期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	20点	課題提出物の評価		
		20点	授業への関心・態度・意欲		
備考					

社会福祉学科

心理学コース

2年生

(講義)		科目名:精神保健福祉制度論		講師: 上松勝二郎	
科目概要・目標		本科目は以下に挙げる内容について理解することを目的とする。①精神障害者に関する法律の体系についての理解。②精神障害者の医療に関する制度(精神保健福祉法の概要及び医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割、精神障害者の医療に関する課題)、③精神障害者の生活支援に関する制度(相談支援制度、居住支援制度、就労支援制度などと精神保健福祉士の役割並びに精神障害者の生活支援制度に関する課題)、④精神障害者の経済的支援に関する制度(生活保護制度、生活困窮者自立支援制度、低所得者対策等諸制度と精神保健福祉士の役割について、及び精神障害者の経済的支援制度に関する課題)			
教科書		一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 精神保健福祉士養成講座 4 精神 保健福祉制度論』中央法規			
提出課題	レポート設題1	精神保健福祉法成立までの過程とその内容について記述せよ。			
	学修のポイント1	医療観察法の基本的仕組み について述べよ。			
	学修のポイント2	障害者総合支援法について、その成立過程と概要を 述べよ。			
	学修のポイント3	障害年金(精神障害者が利用できるもの)について、その 概要と受給 の内容を 述べよ。			
	学修のポイント4	医療に関する制度や施策(国レベルの医療制度や施策と自治体レベルの医療費助成) について述べよ。			
	学修のポイント5	生活困窮者自立支援制度 について、その概要 と各事業について述べよ。			
	学修のポイント6	低所得者対策 について、その概要を 述べよ。			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		精神障害者に関する法制度、社会保障が果たす機能と役割について理解する			
第2回		精神障害者に関する制度の成立過程とその特徴と現在の問題点について			
第3回		実際の事例を通して本科目を学ぶ必要性、制度、サービスについて			
第4回		障害者の医療に関する制度、医療計画について学ぶ			
第5回		医療観察法の概要と精保士の役割について			
第6回		精神障害者の医療関連する施策について			
第7回		精神障害者の生活支援に関する制度について(基本的考え)			
第8回		相談支援制度についての理解(相談支援の概要)			
第9回		居住支援制度及び就労支援制度について			
第10回		精神障害者の経済的支援について(経済的支援の意義と役割)			
第11回		精神障害者の経済的支援について(所得保障に関わる支援)			
第12回		精神障害者の経済的支援について(経済的負担の軽減)			
第13回		生活困窮と生活保護制度について			
第14回		生活困窮者自立支援制度、低所得者対策について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点			
備考					

(演習)		科目名:ソーシャルワーク演習Ⅱ		講師: 森 奈祐	
科目概要・目標	ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。 ソーシャルワーク演習Ⅱは「ソーシャルワークの展開」という位置づけとなり、ソーシャルワーク演習Ⅰで学習したクライアントシステムに関する理解を踏まえて、ソーシャルワーク・プロセスの展開とプロセスにおいて活用される面接やプログラム分析、アウトリーチやチームアプローチといった技術についてトレーニングする。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、高齢者や障害者の支援事業所の運営、介護支援専門員業務、社会福祉・精神保健福祉の相談業務を経て、専門学校で福祉・心理科目の授業や実習指導に携わってきた社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理士の講師のもとで、福祉現場における事例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		「はじめてのソーシャルワーク演習」編集委員会編『はじめてのソーシャルワーク演習』ミネルヴァ書房			
提出課題	レポート設題1	ソーシャルワーク実践における展開過程について述べよ。			
	学修のポイント1	人を理解するための総合的な視点(バイオ・サイコ・ソーシャル)について			
	学修のポイント2	ソーシャルワークの支援過程(ソーシャルワークプロセス)について			
	学修のポイント3	グループワークの展開過程とソーシャルワーカーの動きについて			
	学修のポイント4	コミュニティワークの支援過程とソーシャルワーカーの働きについて			
	学修のポイント5	ネットワーキングについて			
	学修のポイント6	ファシリテーション、ネゴシエーション、プレゼンテーションについて			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション、オープニング			
第2回		人間(個人)の理解			
第3回		面接技法			
第4回		ソーシャルワークの支援過程①			
第5回		ソーシャルワークの支援過程②			
第6回		コミュニティソーシャルワーク・プロセス			
第7回		グループワーク技法①			
第8回		グループワーク技法②			
第9回		グループワークにおけるソーシャルワーカーの役割			
第10回		アウトリーチ			
第11回		チームアプローチ			
第12回		ソーシャルアクション			
第13回		コーディネートとネットワーキング			
第14回		ファシリテーション、ネゴシエーション、プレゼンテーション			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点	提出課題の理解度・提出期限、授業内での取組姿勢、授業への参加態度について評価		
備考		授業中の居眠り、スマートフォン等の無断使用、授業内容に関係ない行為、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価とします。			

(講義)		科目名:公的扶助論		講師:飯塚哲男	
科目概要・目標	この科目では、社会保障制度において“救貧”を担う公的扶助制度に関する基礎知識を体系的に学修する。具体的には、公的扶助制度の歴史的経緯などを学ぶとともに、わが国における公的扶助制度として生活保護制度の目的、原理、原則、実施体制、制度運用の現状と問題点、被保護者の権利及び義務に加え、近年の公的扶助制度に関する動向や課題などについて学ぶ。また、低所得者支援の制度として、生活困窮者自立支援制度や生活福祉資金貸付制度等についても学ぶ。				
教科書		『最新 社会福祉士養成講座 4 貧困に対する支援』専門科目 中央法規 第2版			
提出課題	レポート設題1	【設題1】生活保護の基本原則の一つである補足性の原理について述べなさい。 ＜ポイント＞生活保護法の該当部分の条文を踏まえ、保護の要件とされることと、保護に優先されることを中心に、現状の制度の問題点とともに論じること。			
	学修のポイント1	貧困をとらえる3つのアプローチについて			
	学修のポイント2	生活保護制度の2つの目的について			
	学修のポイント3	生活扶助基準の構成について			
	学修のポイント4	生活保護制度の動向とその背景について			
	学修のポイント5	住宅に関する低所得者支援関連施策について			
	学修のポイント6	生活困窮者自立支援制度について			
期末試験		講義の中で発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション、公的扶助の概念 p2～8			
第2回		貧困の概念度と貧困をとらえる3つのアプローチ p18-27			
第3回		生活保護制度の目的と4つの基本原則① p67-70			
第4回		生活保護制度の4つの基本原則②(補足性の原理) p70-74			
第5回		生活保護制度の4つの基本原則 p74-78			
第6回		生活保護基準①(保護の種類と内容) p78-93			
第7回		生活保護基準②(最低生活保障水準等) p104-111			
第8回		生活保護制度の動向とその背景① p111-124			
第9回		生活保護制度の動向とその背景② p28-40			
第10回		住宅に関する低所得者支援関連施策 p159-173			
第11回		生活困窮者自立支援制度 p126-146			
第12回		貧困支援における関係機関と専門職の役割 p174-196			
第13回		まとめ、レポート作成			
第14回		期末試験/科目終了試験対策			
第15回		期末試験(持ち込み不可)			
第16回		科目終了試験(持ち込み不可)			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。 ※欠席・遅刻しないこと。		
	期末試験	30点	持ち込み不可		
	授業内評価	20点	レポート及び課題 ※期限を守ること。		
		20点	受講姿勢 ※積極的に参加すること。禁止事項を守ること。遅刻しないこと。		
備考		遅刻、欠席、私語、スマートフォン・イヤホン等使用厳禁。			

(実技)		科目名:フィールドワークⅢ		講師:坂本知謙 田本佳寿美 仁井田 和也	
科目概要・目標	社会福祉学を学ぶために、当科目では福祉とはどのようなものかのイメージをもてるようになること目的とする。まず、保健・医療・福祉の概要を学び、福祉の位置づけを確認する。次に、多様な考え方や形があり、多くの専門職の活躍からも成り立つ福祉とはどのようなものかを、自ら情報を得ようとし、グループワークを通して多角的な視点でそれらをまとめることとする。さらに、フィールドワーク(外部研修)を通して、実践の現場に触れる機会を持ち、講義などで学んだものにイメージを付けていくことを目指す。				
教科書	配布資料を基に学習を進める				
期末試験	後日連絡				
回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション、グループワーク				
第2回	精神科ソーシャルワーカーについて				
第3回	精神保健福祉士、精神障害について				
第4回	精神科ソーシャルワーカーについて				
第5回	児童発達支援について				
第6回	スクールカウンセラーについて				
第7回	医療ソーシャルワーカーについて				
第8回	老健について				
第9回	障害者グループホームについて				
第10回	認知症サポーター養成講座				
第11回	ジモト就職について				
第12回	福祉法人などによる授業				
第13回	福祉法人などによる授業				
第14回	成年後見について				
第15回	福祉法人などによる授業				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点	授業態度、グループワーク等への参加・発言・積極性、提出物の内容、提出期限を評価		
備考		授業中の居眠り、スマートフォン等の無断使用、授業内容に関係ない行為、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価とします。			

(講義)		科目名:地域福祉論		講師: 孫琳	
科目概要・目標	本科目では地域福祉の基本的な考え方をはじめ、地域福祉に関わる組織・団体や専門職、住民の主体形成の概念、福祉行財政の実施体制や福祉計画の意義、包括的支援体制の考え方などについて学ぶ。現代の地域福祉を取り巻く問題として社会的孤立や8050問題、生活困窮者支援、災害時の支援などについても取り扱う。本科目は社会福祉士および精神保健福祉士受験資格の指定科目である「地域福祉と包括的支援体制」に対応するものである。				
教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括的支援体制』中央法規			
提出課題	レポート設題1	地域における福祉以外の分野との機関協働のあり方について、実際に行われている先駆的な取り組みを1つ事例として取り上げ、その取り組みが地方創生や地域福祉の推進に及ぼしている影響について考察しなさい。			
	レポート設題2	災害時に活用される法制度の概要と、被災者のニーズおよび平時からの支援体制のあり方について述べよ。			
	学修のポイント1	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題について			
	学修のポイント2	包括的支援体制(包括的な相談支援体制)とその具体例について			
	学修のポイント3	地域福祉の推進主体について			
	学修のポイント4	地域を基盤としたソーシャルワークの展開について			
	学修のポイント5	市町村地域福祉計画の概要とPDSサイクルについて			
	学修のポイント6	福祉行政における地方公共団体の役割と社会福祉の実施体制について			
期末試験					
回数		授業内容			
第1回		学修のポイント①現代社会における社会福祉問題と地域福祉			
第2回		学修のポイント②地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制			
第3回		地域福祉の歴史的発展と基本的な考え方			
第4回		地域福祉ガバナンスと多機関協働①			
第5回		地域福祉ガバナンスと多機関協働②			
第6回		学修のポイント④地域を基盤としたソーシャルワーク(コミュニティソーシャルワーク)			
第7回		地域福祉の推進方法			
第8回		災害支援と地域福祉①			
第9回		災害支援と地域福祉②			
第10回		学修のポイント③地域福祉の推進主体			
第11回		地域における子ども支援			
第12回		学修のポイント⑤地域福祉計画とその実際			
第13回		学修のポイント⑥福祉行財政システム			
第14回		期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点			
	授業内評価	30点	課題提出期限が遅れたら減点 1回5点		
		20点	積極的な授業態度		
備考		参考文献:上野谷加代子・松端克文・永田祐(編著)『新版 よくわかる地域福祉論』ミネルヴァ書房			

2026年度前期

(講義)		科目名:児童・家庭福祉論		講師: 孫琳	
科目概要・目標	少子高齢化社会の進行、家庭や地域における子育て機能の低下などにより、子育て環境が著しく変化している。これからの子ども家庭福祉においては、子どもを健やかに生み育てられる環境づくりと家庭に対する支援を一層重視した施策の展開が求められている。このような子ども家庭福祉をめぐる環境の変化を踏まえ、子どもや家庭を取り巻く現代社会、次世代育支援と子ども・子育て支援、子ども家庭福祉の理念と子どもの権利擁護、子ども家庭福祉の法体系と実施体制、子ども家庭福祉にかかわる福祉・保健施策とソーシャルアクションなどについて学修する。				
教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座3 児童・家庭福祉』中央法規			
提出課題	レポート設題1	少子高齢化社会における子ども家庭福祉のあり方について述べよ。			
	学修のポイント1	子ども家庭福祉とは何か			
	学修のポイント2	少子化高齢化社会の現状と子育て・子育てへの影響について			
	学修のポイント3	子ども家庭福祉に関わる法制度について			
	学修のポイント4	子ども・子育て支援法と子ども・子育て支援制度について			
	学修のポイント5	児童虐待にかかわる支援や対策について			
	学修のポイント6	子ども家庭福祉におけるソーシャルアクションについて			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		学修のポイント①子ども家庭福祉とは			
第2回		学修のポイント②子ども家庭を取り巻く現代社会			
第3回		学修のポイント③子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向			
第4回		少子高齢化社会における子ども家庭福祉のあり方について①			
第5回		少子高齢化社会における子ども家庭福祉のあり方について②			
第6回		社会的養護を必要とする子どもへの支援			
第7回		学修のポイント⑤ドメスティックバイオレンスと子ども虐待、その防止策			
第8回		子育て世帯の貧困とその家庭への対応			
第9回		ひとり親家庭への支援			
第10回		母子保健と子どもの健全育成			
第11回		学修のポイント④少子化に対応するための子育て支援と保育サービス			
第12回		障害のある子どもへの対応と少年非行等への対応			
第13回		学修のポイント⑥子ども家庭福祉におけるソーシャルアクションについて			
第14回		期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点			
	授業内評価	30点	課題提出期限が遅れたら減点 1回5点		
		20点	積極的な授業態度		
備考		参考文献:吉田幸恵・山縣文治(編著)『新版 よくわかる子ども家庭福祉[第2版]』ミネルヴァ書房;垣内国光 [ほか]『子ども家庭福祉: 子ども・家族・社会をどうとらえるか』生活書院			

(講義)		科目名:ソーシャルワークの基盤と専門職		講師: 森奈祐	
科目概要・目標	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ(社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法)について理解した上で、ソーシャルワークの概念、基盤となる考え方(原理・理念)を学び、現代にいたるまでのソーシャルワークの歴史的な形成過程について学ぶ。 さらに、社会福祉士、精神保健福祉士、ソーシャルワーカーそれぞれの倫理綱領を読み解き、ソーシャルワークの価値規範と倫理について考究を行う。				
教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規			
提出課題	レポート設題1	ソーシャルワーカーの倫理綱領・行動規範を学び、ソーシャルワーク実践においてなぜ倫理綱領を遵守することが大切なのかを考察せよ。			
	学修のポイント1	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義について			
	学修のポイント2	ソーシャルワークの理念について			
	学修のポイント3	ソーシャルワークの源流と基礎確立期の歴史的展開			
	学修のポイント4	ソーシャルワークの発展期について			
	学修のポイント5	ソーシャルワークの展開期と統合化について			
	学修のポイント6	日本におけるソーシャルワークの形成過程について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法			
第2回		ソーシャルワーク専門職のグローバル定義について①			
第3回		ソーシャルワーク専門職のグローバル定義について②			
第4回		コンピテンシーについて			
第5回		ソーシャルワークの倫理			
第6回		専門職倫理の概念と倫理綱領			
第7回		ソーシャルワークの原理			
第8回		ソーシャルワークの理念①			
第9回		ソーシャルワークの理念②			
第10回		ソーシャルワークの源流と基礎確立期①			
第11回		ソーシャルワークの源流と基礎確立期②			
第12回		ソーシャルワークの発展期			
第13回		ソーシャルワークの展開期と統合化			
第14回		日本におけるソーシャルワークの形成過程			
第15回		期末試験			
第16回		科目修了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	提出課題の理解度・提出期限、授業内での取組姿勢、授業への参加態度について評価		
備考		授業中の居眠り、スマートフォン等の無断使用、授業内容に関係ない行為、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価とします。			

2020年度 前期

(講義)		科目名:一般教養対策講座Ⅰ		講師:片桐 淳	
科目概要・目標	就職試験、公務員試験に向けて広く一般教養を高めること				
教科書		なし			
期末試験		総復習テスト			
回数		授業内容			
第1回		一般教養対策等			
第2回		一般教養対策等			
第3回		一般教養対策等			
第4回		一般教養対策等			
第5回		一般教養対策等			
第6回		一般教養対策等			
第7回		一般教養対策等			
第8回		一般教養対策等			
第9回		一般教養対策等			
第10回		一般教養対策等			
第11回		一般教養対策等			
第12回		一般教養対策等			
第13回		一般教養対策等			
第14回		一般教養対策等			
第15回		一般教養対策等			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	25点	総復習テスト		
	授業内評価	45点	各回復習テスト(3点×15回)		
備考					

(講義)		科目名:基礎演習Ⅱ		講師:橋井 大輔	
科目概要・目標		基礎演習Ⅰで学んだことをふまえて、心理学における様々なテーマに関しての理論・方法について、基礎知識をより広げ、より深める。ここでも、基礎的な心理テストや心理実験・調査を実際に行い、心理学における体験的理解をより確実なものにしていく。スクリーニングでは、様々なテーマについて、グループディスカッションやグループワークを行い、お互いの知識を教授し合うことによって、さらなる理解を深めていく。			
教科書		B.フィンドレイ『心理学 実験・研究レポートの書き方』 大野木裕明, 他『調査実験 自分でできる心理学』			
提出課題	レポート設題1	教科書『心理学 実験・研究レポートの書き方』の2章から4章を読んで、心理学実験・研究レポートを書くにあたっての、必要事項を述べよ。			
	学修のポイント1	ジェンダー・ステレオタイプについて			
	学修のポイント2	自分のアイデンティティについて			
	学修のポイント3	傾聴について			
	学修のポイント4	セルフ・エフィカシー(自己効力感)について			
	学修のポイント5	心理学で使う統計量について			
	学修のポイント6	クリティカル・シンキングについて			
期末試験		後日連絡します。			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション セルフ・エフィカシーについて(学修ポイント④)			
第2回		ジェンダー・ステレオタイプについて(学修ポイント①)			
第3回		心理学を学ぶ上での実験レポートについて(レポート)			
第4回		心理学レポートを書くにあたっての、基礎的概念について(レポート)			
第5回		心理学レポートの書き方について①(レポート)			
第6回		心理学レポートの書き方について②(レポート)			
第7回		心理学レポートを書くにあたっての、表現形式と引用の仕方盗用の避け方について(レポート)			
第8回		傾聴について(学修ポイント③)			
第9回		自分のアイデンティティについて(学修ポイント②)			
第10回		心理学で使う統計量について①(学修ポイント⑤)			
第11回		心理学で使う統計量について②(学修ポイント⑤)			
第12回		クリティカル・シンキングについて(学修ポイント⑥)			
第13回		学生の勉強と適応について			
第14回		まとめ			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	後日連絡する		
	授業内評価	15点	レポートの提出による評価		
		15点	受講態度による評価		
備考		3200字設題レポート, 1000字科目修了試験, 合格を目指して, 頑張りましょう			

2026年度前期

2026年度前期		(講義)		科目名:青年心理学		講師: 木村 洋太	
科目概要・目標		10代半ば～20代前半はまさに青年期と呼ばれる時期に位置し、大学生の”今”が詰まった時期と言える。この授業では、これまでの自分の体験をもとに青年期を考えることから出発し、周りの友だちの体験、そして心理学の理論・データの知見を参考にしながら、青年期に深く関わるテーマ(自己・友人関係・反抗期・恋愛・勉強など)に目を向ける。授業を通して、自由な心のあり方を学び、更新されていく自分の姿を感じながら自己の理解を深めて欲しい。					
教科書		教科書は指定せず、講義レジュメと参考資料を配布する。参考文献は授業中に適宜紹介する。					
期末試験		詳細は、後日に決定する					
回数		授業内容					
第1回		オリエンテーション 心理学と発達心理学					
第2回		青年期とはいつなのか？ 発達段階とはなにか					
第3回		児童期後半に起こる心の揺れ					
第4回		親子関係の発達変化 - 大人にイラっとするとき 反抗期を考える					
第5回		友人関係の発達変化 - 私たちって親友だよ					
第6回		自己肯定感を育む					
第7回		現代青年のアイデンティティ					
第8回		アイデンティティの拡散					
第9回		性格心理学					
第10回		自分探しの青年心理学1: 合意形成: 互いに違う価値観の理解					
第11回		恋愛の心理学					
第12回		恋に落ちる過程の心理学					
第13回		告白と両想いの心理学					
第14回		愛が終わる過程の心理学					
第15回		デートバイオレンスについて					
第16回		期末試験					
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。				
	期末試験	50点	論述式。持ち込み可。				
	授業内評価	20点	毎授業提出するワークシート、授業の参加姿勢などを総合的に評価する。				
備考(メッセージ)		みなさんにとっての「あるある」が授業内に詰まっています。青年期は、ココロと身体が飛躍的に変化する時期であるゆえに、様々に苦しむ時期でもあります。いいところも悪いところも、自分の理解を深めることで、これからの見通しに役立てられるような下地をつくりましょう。					

(講義)		科目名:心理学実験(心理)	講師: 武野 全恵
科目概要・目標	本講義は、実験心理学に対する基礎的知識について解説を挟みながら、原則演習形式で展開する。実際には、実験に関連する現象や理論について説明をした後、さらなる知見を得るために実施する実験の方法、計画について説明を行う。実験方法及び実験計画について理解したうえで、実験の結果についてディスカッションを行い予測を立てたうえで、実験を実施し、その結果について結果予測を踏まえて考察を行う。このような演習構成により研究の背景、方法、結果、考察の流れを理解させ、心理学の実験の成り立ち等について理解させる。		
教科書		公益社団法人 日本心理学会認定心理士資格認定委員会編『認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎』金子書房 2015年 参考文献: 大山正、他『新心理学ライブラリ8 実験心理学への招待』サイエンス社 2012年	
提出課題	レポート設題1	心理学実験法についてまとめ、自分の問題意識に沿った実験のテーマや方法について考察せよ	
	レポート設題2	日常生活や社会問題に貢献する実験心理学研究について考察せよ	
	学修のポイント1	グループ比較デザインと一事例研究について考察せよ	
	学修のポイント2	実験の利点と欠点について	
	学修のポイント3	感覚・知覚の一般的特性と、形やパターンの知覚について	
	学修のポイント4	記憶における符号化と検索について(関連する実験を含めて)	
	学修のポイント5	外発的動機づけと内発的動機づけについて(関連する実験を含めて)	
	学修のポイント6	学習の正負の転移と、学習の構えについて(関連する実験を含めて)	
期末試験		詳細は後日に発表する	
回数		授業内容	
第1回		イントロダクション・実験とは何か・心理学実験法について	
第2回		設題1 3200字レポート下書作成	
第3回		【実験1】	
第4回		錯覚について・結果予測・実験実施・考察	
第5回		【実験2】	
第6回		他者の存在による作業量について・結果予測・実験実施・考察	
第7回		【実験3】	
第8回		動機づけについて・実験実施・結果予測・解説・考察	
第9回		実験の利点と欠点	
第10回		学修のポイント2 1200字レポート作成、設題1 3200字レポート清書作成	
第11回		【実験4 学習心理学】	
第12回		学習の転移について・実験実施・結果予測・解説・考察	
第13回		【実験5 認知心理学】符号化と検索について・結果予測・実験実施・	
第14回		解説・考察、学修のポイント4 1200字レポート作成	
第15回		【実験6 社会心理学】	
第16回		パーソナル・スペースについて説明・結果予測・解説・考察	
第17回		日常生活や社会問題に関連する研究の紹介	
第18回		設題2 3200字レポート下書作成	
第19回		【質問紙調査】	
第20回		質問紙作成についての説明・構成概念の選択・質問項目の作成	
第21回		【質問紙調査】	
第22回		論文の検索について説明・妥当性検討のための論文探し・結果予測	
第23回		【質問紙調査】	
第24回		質問紙作成・質問紙調査の実施	
第25回		【質問紙調査】データの集計・分析のやり方説明・集計	
第26回		設題2 3200字レポート清書作成	
第27回		【質問紙調査】	
第28回		データの分析・結果についてディスカッション・考察	
第29回		【質問紙調査 予備】	
第30回		テストの準備とまとめ	
第31回		期末試験	
第32回		科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。	
	期末試験	45点 論述式。持ち込み可。	
	授業内評価	15点 実験やディスカッションへの参加などの授業態度を踏まえて評価を行う。	
		10点 レポートなどの提出状況を踏まえて評価を行う。	
備考		グループ単位でディスカッションを行ったり、実験を行ったりする場面が多く、周りの人との協力が必要となる授業です。そのため、メンバーに迷惑がかからないようできるだけ出席するように心がけてください。また、欠席するとその回は態度の評価ができませんので、授業態度点も減点となります。そのため、できるだけ欠席をしないよう体調管理等に気を付けてください。また、進度によってはシラバスと内容が変更となる可能性があります。	

(講義)		科目名:精神保健学		講師: 上松勝二郎	
科目概要・目標	精神保健とは、精神的健康に関する公衆衛生であり、精神障害の予防・治療・リハビリテーションから、精神的健康の保持・増進を図るための諸活動までも含んでいる。このような精神保健の基本的視点や基礎知識を 学修 し、現代の精神保健の意義や課題を考える。				
	具体的には、精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要、精神保健の視点から見た(1)家族の課題とアプローチ、(2)学校教育の課題とアプローチ(3)勤労者の課題とアプローチ(4)現代社会の課題とアプローチ、精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割、地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題、精神保健に関する専門職種(保健師等)と国・都道府県・市町村・団体等の役割及び連携、諸外国の精神保健活動の現状及び対策を学ぶ。				
教科書		新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集 『新版精神保健福祉士養成セミナー第2巻 精神保健学—精神保健の課題と支援 』へるす出版			
提出課題	レポート設題1	ライフサイクルにおける精神保健について述べよ			
	レポート設題2	精神保健における個別課題の取り組みについて述べよ			
	学修のポイント1	認知症高齢者対策について			
	学修のポイント2	アルコール関連問題について			
	学修のポイント3	世界の精神保健の現状について			
	学修のポイント4	思春期精神保健対策について			
	学修のポイント5	地域での精神保健施策の現状と課題について			
	学修のポイント6	現代社会の精神保健学的な課題と対策について			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		現代社会と精神保健 (精神保健の意義と対策)			
第2回		ライフサイクルにおける精神保健 (乳児期・学童期)			
第3回		ライフサイクルにおける精神保健 (思春期・青年期)			
第4回		ライフサイクルにおける精神保健 (成人期)			
第5回		ライフサイクルにおける精神保健 (老年期、認知症について)			
第6回		わが国の精神障害対策			
第7回		アルコール関連問題対策、薬物乱用防止対策について			
第8回		思春期の精神保健対策			
第9回		地域精神保健活動、こころの健康づくり、司法精神保健福祉対策			
第10回		緩和ケアと精神保健、精神保健における技法、カウンセリングについて			
第11回		家庭における精神保健、学校における精神保健			
第12回		地域精神保健の現状と課題、精神保健に関する調査研究			
第13回		メンタルヘルスの諸課題における関連専門職種の役割と連携			
第14回		世界の精神保健			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点			
備考					

(講義)		科目名:臨床心理学概論		講師: 平石 太一	
科目概要・目標	臨床心理学は、心理的な障害や問題に悩む人の適応や発達、自己実現を専門的に援助する実践について研究する学問である。そのため、まず、発達の観点からの臨床心理学的人間理解として、乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期の心理的な課題と問題について学ぶ。また、心理アセスメントの様々な側面と方法について学び、様々な臨床心理学的援助の方法についても概観する。その上で、臨床心理学的実践の様々な領域についての学修を重ね、実践における臨床心理学的な視点や思考方法を身につける。臨床心理学的援助としての心理療法の成り立ち、心理療法の代表的な理論についても理解する。 (実務を有する講師による授業の補足) 当科目は、臨床心理士・公認心理師として医療領域・教育領域で心理的支援を行ってきた講師のもと、カウンセラー業務を通した実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。				
	教科書		野島一彦 『臨床心理学への招待』 ミネルヴァ書房		
提出課題	レポート設題1	心理療法の成り立ちについて述べよ。			
	レポート設題2	心理療法の代表的な理論について述べよ。			
	学修のポイント1	アセスメント面接の進め方とその留意点について			
	学修のポイント2	保健医療分野における心理に関する支援について			
	学修のポイント3	福祉分野における心理に関する支援について			
	学修のポイント4	教育分野における心理に関する支援について			
	学修のポイント5	司法・矯正分野における心理に関する支援について			
	学修のポイント6	産業・労働分野における心理に関する支援について			
期末試験		授業中での重要ポイントを中心に出題。			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション・臨床心理学とは			
第2回		アセスメント			
第3回		アセスメント面接			
第4回		クライアント中心療法			
第5回		精神分析			
第6回		行動療法			
第7回		認知行動療法			
第8回		心理療法の成り立ち			
第9回		臨床心理学の対象①			
第10回		臨床心理学の対象②			
第11回		臨床心理学の対象③			
第12回		臨床心理学の対象④			
第13回		倫理			
第14回		まとめ			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	授業態度、レポート内容等を評価対象とする。		
備考		他の学生の迷惑になると判断した場合、厳格に対応する。			

(講義)		科目名:精神保健福祉の原理		講師:田本 佳寿美	
科目概要・目標	科目	本科目は、障害者福祉の思想と原理、理念、また歴史的展開を理解したうえで、現代の「障害」や「障害者」に関する概念について学ぶ。また、諸外国の動向を踏まえ、日本の障害に関する現状や課題、精神科医療の特異性を学習する。さらには現代社会において、精神保健福祉士が有すべき原理や価値、理解しておくべき根拠法(精神保健福祉士法)や倫理綱領、職域と業務内容について考究することを目的とする。具体的には次の7つの項目を学修目標とする。 ①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み(理念・視点・関係性)について理解する。 ② 精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。 ③ 精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。 ④ 精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。 ⑤ 現在の精神保健福祉士の基本的枠組み(理念・視点・関係性)と倫理綱領に基づく職責について理解する。 ⑥ 精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。			
	教科書	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の原理』中央法規。			
レポート	設題 1	精神障害についての概念について説明しなさい。 ＜ポイント＞ICIDHとICFを採用した精神障害の構造を説明する。そのうえで、疾病と障害の共存について、障害の可逆性、環境因子との相互作用、体裁としての障害などについて具体例を挙げながら述べること。			
	設題 2	明治期から現代にかけて、精神障害者の対応法の歴史的変遷について述べなさい。＜ポイント＞精神障害者監護法・精神病院法の戦前二法がいかなる状況で制定されたのか、またどのような内容の法令であったかを述べる。加えて、1950年成立した、精神衛生法がいかなる改正を経て現在に至っているのかについて述べること。			
科目終了試験	学修のポイント1	1965年と1987年の精神衛生法改正について、その内容と改正のきっかけになった事件の内容を書きなさい。 ＜ポイント＞1964年のライシャワー事件と1984年宇都宮病院事件発覚について、それぞれ何が問題とされたのかについて述べる。加えてそれらの問題について、わが国の精神科医療の特異性について述べなさい。			
	学修のポイント2	＜ポイント＞病院収容についての歴史と精神科特例、多利併用についてその概要と問題点について述べる。また、施設化した精神科病への警告としてのクラーク精神障害者の家族が置かれている状況について述べなさい。			
	学修のポイント3	＜ポイント＞法律に規定された家族の位置づけを、法の変遷にそって述べる。まずは精神障害者監護法での規定と役割、精神衛生法の改正によって幾度もその規定と役割が変遷している。その問題点と変遷について述べる。			
	学修のポイント4	「Y問題」について、概要とその後の影響について述べよ。 ＜ポイント＞まず、「Y問題」というものが何かについて述べる。そのうえで、「Y問題」が示したPSWへの教訓と課題について学修すること。その後に変更された倫理綱領への影響があること。			
	学修のポイント5	エンパワメントとリカバリーについて、その特徴と定義について述べよ。 ＜ポイント＞それぞれの概念が生成された背景と定義、それらの視点を活用した実践などを述べるように学修すること。			
	学修のポイント6	精神保健福祉士法(※注意:精神保健福祉法ではない)について概要について述べよ。 ＜ポイント＞精神保健福祉士法の成立とその目的について、その定義、義務規定について説明できるように学修すること。			
期末試験		後日連絡			
回数		授業内容			
第1回		「精神保健福祉の原理とは何か」 「日本における排除の歴史と構造」①			
第2回		「障害者福祉の理念と歴史的展開」 「日本における排除の歴史と構造」②			
第3回		「制度における「精神障害者」の定義」「国際生活機能分類(ICF)と精神障害」 「精神障害の「精神特性」			
第4回		「精神障害の理解と支援にかかわる新たな潮流」 「諸外国における排除の歴史とその後の展開」			
第5回		「日本の社会的障壁をめぐる課題とその克服への取り組み」			
第6回		「精神科医療による生活への影響」			
第7回		「精神障害者の家族が置かれている状況」 「精神障害者の社会生活の実態」			
第8回		「メンタルヘルスをめぐる新たな課題」 「精神保健福祉士の原理が培われた足跡・過程」			
第9回		「精神保健福祉士による実践の価値・原理」 「精神保健福祉士による実践の視野や視点」			
第10回		「援助における関係性」 「精神保健福祉士法の理解」			
第11回		「精神保健福祉士の職業倫理」 「精神保健福祉士の業務特性と業務指針」			
第12回		「繊維新保健福祉士の職場・職員」			
第13回		「精神保健福祉士の業務内容とその特性」			
第14回		まとめ 期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	20点	課題提出物の評価		
		20点	授業への関心・態度・意欲		
備考					